

# 教師ノート

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 日付                         | 2011年 5月 8日   |
| 単元                         | モーセ・1   |
| テーマ                        | 神は私たちに召し、共にいてくださる   |
| タイトル                       | 使命を与えられたモーセ   |
| テキスト                       | 出エジプト2:11-4:31  |
| 参照箇所                       | 使徒7:17-34   |
| 暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) | 出エジプト3:12   |
| AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)    | <a href="#">小下 2 題 3 課 10</a> 、 <a href="#">小上 1 題 1 課 10</a> 、 <a href="#">幼 2 題 1 課 2</a> |

## □導入

今日は、モーセが神さまと不思議な出会いをする場面のお話です。先週のお話を思い出しましょう。モーセはどこで育ちましたか？エジプトのパロの王宮で王女の息子として育てられましたね。しかし、モーセは神さまとであったとき、ミデヤンという田舎で、羊飼いをしていました。どうしてだと思いませんか？それはある失敗がきっかけでした。

## □ポイント1 モーセはエジプトを出てミデヤンへ行きました(2:11~25)

モーセは立派なおとなに成長しました(使徒7:23によると40歳)。彼は、自分の仲間であるイスラエル人が、苦しい労働をさせられているのを目の前で見ました(モーセは、幼少時代に自分がイスラエル人だということを、本当の母親からしっかり教えられていました)。そして非常にせつない気持ちになり、なんとか仲間を助けたいと思いました。その時、あるエジプト人が、ひとりのイスラエル人をいじめているのを見ました。モーセはゆるせない気持ちになりました。恐ろしいことに、モーセは、あたりを見回し、だれもいないことを確認すると、そのエジプト人を打ち殺し、砂の中に埋めて隠しました。これは重大な罪です。イスラエルの愛する気持ちから、勇気を出して仲間を助けたとしても、人を殺すのはいけません。次の日、また外に出てみると、今度は、ヘブル人同士が争っているのを見ました。そこでモーセは、悪い方に向かって、「どうして仲間を打つのか」と言いました。するとその男は、「お前なんか、俺たちの裁判役ではない。それとも、エジプト人を殺したように、俺のことも殺すつもりか」と言いました。イスラエル人も、モーセのしたことを受け入れなかったのです。さらに、パロもモーセがエジプト人を殺したことを聞いて非常に怒り、「死刑にしてやる！」と探し始めました。そこでモーセは、誰も追ってこないように、ミデヤンという地方まで逃げました。モーセが井戸のそばに座っていたとき、レウエルという人の7人の娘も羊たちに水を飲ませに来ていました。そこへ意地悪な羊飼いの男たちが来て、彼女らを追い払いました。モーセは、女性たちを助け、親切にしました。それがきっかけで、モーセはレウエルの家族と一緒に、ミデヤンに住むようになりました。娘のチッポラと結婚し、男の子が生まれました。

## □ポイント2 神さまはモーセに使命を与えられました(モーセは召命を受けました)(3章)

☞特に3章1-12節は、こどもたちと一緒に、聖書をよく読みましょう。

エジプトではイスラエル人が、過酷な労働に叫びを上げる毎日が続いていました。神はその嘆きに心を留めておられました。一方、モーセは40年の間、ミデヤンで羊を飼って暮らしていました。もう80歳です。ある日のこと、モーセは羊の群れを連れて、ホレブ山に来ました。そこで、柴が燃えていて、その炎の中に、主の使いが現れました。不思議なことに、炎に包まれているのに、木は全く焼けていません。モーセが近寄ってみようとする、「モーセ、モーセ」と声がしました。神が柴の中から呼ばれたのです。モーセは、「はい、ここにおります」と答えました。神さまはモーセに言われました。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」モーセは神を仰ぎ見る

ことを恐れて、顔を隠して聞いていました。神はまた言われました。「私は、エジプトにいる私の民の苦しみを確かに見、叫びを聞いた。私は彼らの痛みを知っている。私は、彼らをエジプトの手から救い出し、乳と蜜の流れる(=農耕や牧畜のために豊かな)カナンの上に上らせる。」そして、モーセに「今、行きなさい。私はあなたをパロのもとに遣わします。苦しんでいる私の民をエジプトから連れ出さなさい」と言って、重大な使命を与えられました。(このように神が、私たちに使命を与え、ご用のために呼び寄せてくださることを「召し」とか「召命」といいます。) モーセは驚き戸惑うばかりで「そんなこと、私にできるわけがありません」と言いました。すると、神は、「私があなたとともにいる。私があなただを遣わすのだ。」と言われ、モーセにチカラがなくても、神が助け、成し遂げてくださることを約束してくださいました。そしてエジプトで、パロに対して何をすればよいのか、具体的な指導をしてくださいました。

- ☞ モーセは、神に名前を聞きました。「自分には自信も権威もない。いったい誰の権威で、このことを民に告げればよいのか。」彼は先に、自分が神にとって何者なのかを問いましたが(11節)、今度は、神が自分にとって何者なのかを問う質問です。「私はある」というのは、名前でもあり、初めから終わりまで、変わらず、生きて働いてくださる神のご性質(自存性・永遠性)を表すことばです。

### □ポイント3 モーセは神さまの召しに従ってエジプトに行くことにしました(4:1-31)

神は、不思議なしるしを与えてくださいました。(①モーセの杖を、一瞬でへびに変え、またそれを杖に戻す。②モーセが手をふところに入れると、皮膚病で真っ白になり、また入れると元の手に戻す。) これらは、神がモーセを選んだことを、人々に信じさせるためです。それでもモーセはまだ不安でした。彼は神に「私はしゃべるのが苦手なので、リーダーには向いていないと思います」と言いました。神は「言うべきことは私が教えるから、心配しないでよろしい」と答えられました。なのにモーセは「やっぱり他の人にしてください」と言ってしまいました。自分のチカラに自信がないのは、仕方のないことです。でも、神が「ともにいて助ける」と約束して下さっているのですから、それを信頼するべきでした。神はそのことを怒りました。しかし、なおも哀れんで「話すのが得意な兄アロンを通して、あなたを助けるから大丈夫です」と、モーセに言い聞かせて下さいました。こうしてモーセは、神が与えてくださった使命に従うことを決心しました。エジプトで苦しんでいるイスラエルの民を、パロの手から救うために、立ち上がったのです。

### □結論 神さまはモーセにイスラエルの民をエジプトから救い出す使命をお与えになりました

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

暗唱聖句を読み上げます 神さまはわたしたちにも、それぞれに使命を与えてくださっています。あなたの使命は何だと思えますか？神さまは、愛するご自分の民を救いたいのです。そのためにあなたを助けてほしいのです。あなたは将来どんなことをして、どんな人に福音を伝えますか？(CS の先生になって子どもたちに伝える、お医者さんになって病気で困っている人に伝える、宣教師・Jリーガー・社長さん・宇宙飛行士になってイエスさまを伝える…など) 自分なんかには神さまが特別な使命を与えてくれるわけがないと思っている人はいませんか？神さまは失敗して逃げ出したモーセ、弱気でしゃべるのが苦手なモーセをイスラエルのリーダーにしてくださいました。また、子どもだからまだ使命はない、と思っている人はいませんか？子どもだからできることもたくさんあります。(CS にお友だちをさそう、夏休みをつかっていっぱい奉仕をする、賛美やダンスでお年寄りを励ますなど) 遣わして下さるのは神さまですから、神さまが助けてくださるのです。時には不思議な奇跡も見せてくださいます。あなたが苦手なことでも、使命を成し遂げるために、その能力も与えてくださいます。そして、必要な場所にあなたを遣わしてください。いえ、もう遣わして下さっているのです。今、あなたがいる家・学校・習い事・教会…そこは神さまがあなたを遣わして下さった場所です。何をするためにでしょうか？考えてみよう！恐れることはありません。神さまは約束どおり、いつもあなたとともにいて、励ましてくださいます。あなたは神の使命を受けています。「無理です、他の人にしてください」というよりも、神さまに与えられた使命に従って生きる方が幸せだね。